

3.2 陸前高田復興支援プログラム

学生チーフ総括

2018年で東日本大震災から7年が経つ。7年が経つということは、私たちの活動にも変化が必要になるということである。2018年は既存の活動だけでなく、新しい活動を試行錯誤した1年であった。

私たちが今年の活動において大切にしたのは以下の二点である。一つ目は陸前高田の方々とのつながりを大切に、近い距離で接することである。私たちが活動を継続できているのは、陸前高田の方々の温かさに支えられているからである。感謝の気持ちを持ちながら、陸前高田の方々に関わり続けることは何よりも重要であると感じた。一つの形の表れとして、今年は「たかた子どもキャンパス」をはじめ、企画立案の段階から関わらせていただいた活動もあり、少しずつではあるが新しい試みでも信頼関係が築けていると感じる。

二つ目として、私たちの活動を広い視野で捉えることも必要であると感じ、今年は「そなエリア東京（防災体験学習施設）」の見学をはじめ、他大学の復興支援団体との勉強会にも積極的に参加した。これらの活動を通じて、メンバーそれぞれが刺激を受けるとともに、新たな活動のきっかけ作りにも生かせるものが多かったと感じている。今後とも継続していきたいと思うところである。

総じて今年1年間の活動というのは、すぐに成果が表れるわけではない。しかし今後私たちに求められる活動とは、私たちなりの思い・関わり方で活動を行っていくということであると思う。その意味でメンバー各々が活動において自分なりの思いを持つことが大切であり、私たちなりの活動を作っていく一歩になったと感じる。

私たちの活動というのは決して大きなことを成し遂げることが目標ではない。復興が進むなか地域の方々に寄り添い、笑顔の一助になれる活動を行っていくことであると感じる。今後はメンバーの思いを大切に、笑顔の輪を作っていける活動を行っていければと思う。

(学生メンバー 法学部法律学科)

●2018年度「陸前高田復興支援プログラム」の主な活動

日にち（移動日含む）	内容（参加人数）
5/27（日）	防災体験学習施設「そなエリア東京」を見学（11名）
7/6（金）～7/9（月）	スタディツアー（8名）
7/13（金）～7/15（日）	きらりんきっず「夕涼み会」に参加（5名）
8/5（日）～8/9（木）	・「けんか七夕」に参加（4名） ・「うごく七夕」に参加（4名）
8/10（金）～8/12（日）	たかた子どもキャンパス「夏の思い出自然体験（米崎の海編）」に参加（3名）
8/17（金）～8/19（日）	たかた子どもキャンパス「ペットボトルいかだチャレンジ」に参加（4名）
9/1（土）	「復興支援大学校」に参加（9名）
9/28（金）～9/30（日）	たかた子どもキャンパス「稲刈り体験」に参加（6名）
10/26（金）～10/29（月）	たかた子どもキャンパス「自主企画」を実施（4名）
11/1（木）～11/3（土）	大学祭「白金祭」で陸前高田「あんじょう農園」の米崎りんごを使用した「りんごパイ」を販売

12/7 (金) ~12/10 (月)	きらりんきっず「ファミリーフェス 2018」に参加 (2名)
1月	「白金祭」での利益 5,408 円を日本赤十字社「平成 30 年 7 月豪雨災害義援金」に寄付
3/10 (日)	「3.11 被災地応援イベント～あの時と今～」 横浜市民防災センターで横浜地域活動、陸前高田復興支援プログラムのメンバーが来場する子ども向けのブースを出展 (6名)

◇防災体験学習施設「そなエリア東京」見学

目的	スタディツアーの事前学習を兼ねた見学
場所	東京臨海広域防災公園 そなエリア (江東区有明)
活動内容	津波についての知識を身につけ現地での学びをより有意義なものにする
活動日時、 参加人数	2018 年 5 月 27 日 (日) 14:00~16:00 11 名

実施概要

防災体験ゾーンで実際に災害が起きた時のシチュエーションで災害について考える。津波避難体験コーナーではどのように津波から逃れるべきか考える。防災学習ゾーンでは、災害が起きた際に役立つ知識や必要な物について学ぶ。そのほか、災害と暮らしの学習、事例に学ぶ自助の知識、地域情報コーナー、映像ホールでアニメから災害を学ぶ。

感想・活動を通して得た学び

私自身、このセクションに入ったばかりだったので災害について理解を深めるとも良い機会となった。日常生活の中で災害について考える機会はなかなか少ないので、この活動に参加したことで災害が起きた時に自分がどのように行動するべきか具体的に考えることができた。そして次のスタディツアーの学びへとつながったのが良かった。

今後に向けて

そなエリアはとても綺麗で、一人一つタブレットを持ち災害が起きた街を歩き、その中でどういった対処法が正しいのかといったクイズなどがあり、セクションに入ったばかりの新生や災害の知識を深めたい人にはとてもわかりやすく、良い場所だと思った。これからもそなエリア見学を行うことで多くの人が災害について学ぶきっかけとなり、今後の活動へとつながると思った。

(学生メンバー 国際学部国際学科)

◇スタディツアー

目的	陸前高田を知る、そこで経験したことを今後の活動に生かす
場所	岩手県陸前高田市、大船渡市
活動内容	語り部さんからお話を聞く/市内見学
活動日時 参加人数	2018 年 7 月 7 日 (土) ~7 月 8 日 (日) 8 名

実施概要

1 日目：震災についての具体的なお話を体験された方から聞き、津波の被害に遭われた方々の気持ちを考える。

奇跡の一本松の見学では、津波の恐ろしさを目で見て感じた。それとは別に一本松の木の生命力を復興の象徴としている町の方々の気持ちを考える。

アバッセたかたでは、陸前高田市内の町並みを見学した。

2 日目：1 日目にお話を伺った方とは別の語り部さんにお話を伺い、さまざまな思いを知る。

大船渡津波伝承館を訪問し、津波の恐ろしさをデータや数値を見て再確認する。

活動を通して学んだこと

陸前高田市へ実際に足を運び、被害の状況を自分の目や耳で確かめ、肌で感じることで、実際に行動してみることの大切さを理解した。テレビのニュースや新聞の記事ではわからないこともあり、災害の被害の甚大さを知らない人が多いのではないかと考えた。大きな被害を受けてしまったのは勿論自然の力が原因だが、人為的な原因もあったと聞かされた。人のちょっとした不注意で大きな被害を促す可能性があるということは自分たちの身の回りにも言えることと気づいた。自然の脅威は計り知れないものであり、人間の予想を上回る可能性があることを理解するべきと思った。

今後に向けて

陸前高田市復興に役立てるように、自分たちは活動を行う。ボランティア活動という名目で自分たちが手助けしているようにも思えるが、現地の方々に温かく迎え入れてもらっているおかげで、滞りなく活動ができています。自分たちも支えてもらっている立場だということを忘れずに今後の活動に励む。

(学生メンバー 法学部消費情報環境法学科)

◇きらりんきっず「夕涼み会」

目的	親子向けイベントのお手伝い
場所	高田大隈つどいの丘商店街（岩手県陸前高田市高田町）
活動内容	お化け屋敷の出し物/イベント屋台のお手伝い
活動日時、参加人数	2018年7月14日（土）8：00～21：00 5名

実施概要

私たちは毎年特定非営利活動法人きらりんきっず主催の夕涼み会に参加させてもらっている。ボランティアとして屋台の手伝いをするだけでなく、私たち自らブースを開いて参加している。今年はお化け屋敷を出展し、後片付けの手伝いも行った。

大きな困難から立ち直ろうと支えあう人々の集いで、1日を通して大いに盛り上がった。



感想・活動を通して得た学び

自ら出展するということが活動はボランティアな内容であった。実にたくさんの人々が集まり、街の復興ぶりを肌で感じるとともに、未来に臨む子どもたちの限らないバイタリティーを垣間見た。無料で開いていたため何度も何度も繰り返し足を運ぶ子どもがいた。彼らの笑顔を見るたびに自分たちの活動の意味を思い知ることができた。後日、きらりんきっずの方からお礼の便りをいただいた。喜び、達成感、そしてボランティア活動を実感した。

今後に向けて

先輩から受け継いでいるこの活動を絶やすことなく続けていきたいと思う。ボランティア活動で知り合った現地の子どもと数年ぶりに再会しその成長ぶりに驚いたとの声があった。街のこれからを担う子どもたちに寄り添い未来を支える、そんなボランティア活動でありたい。

(学生メンバー 経済学部経済学科)

◇けんか七夕

目的	・伝統ある「けんか七夕まつり」を盛り上げる ・ボランティア学生として祭りを盛り上げる
場所	岩手県陸前高田市気仙町
活動内容	お祭りの準備のお手伝い、参加、片付けのお手伝い
活動日時、 参加人数	2018年8月6日(月) 8:30~18:30、8月7日(火) 8:30~21:00、8月8日(水) 8:00~14:30、4名

◇うごく七夕

目的	・長年続いているお祭りに参加することで、現地の人々がお祭りにかける思いを知る ・お祭りに参加することで地域の活性化に貢献する
場所	岩手県陸前高田市高田町中心部
活動内容	お祭りのお手伝い
活動日時、 参加人数	2018年8月6日(月) 8:30~22:00、8月7日(火) 8:15~20:00、8月8日(水) 8:00~14:30、4名

実施概要

1日目は、今回お世話になる荒町組の方の指示のもと短冊などのお手伝い、昼食後市内案内、大船渡温泉にて入浴。お祭りの関係者の方と夕食をご一緒させていただきました。

2日目は雨のため予定より大幅に遅れて開会式がスタートした。また雨のため老人ホームに行くことができずにけんか七夕の見学をした。その後雨が上がりアバッセたかた周辺に移動した。さまざまな地域の山車を見ながら山車を引くことができた。

3日目は午前中にけんか七夕の片付けの手伝いをし、帰路についた。



感想・活動を通して得た学び

うごく七夕などのお祭りは地域の方などが協力して作り上げているものでたくさんの方々をつないでいるものだと実感した。

ある地域の方が、「震災前のような祭りはできないけれど、祭りを続けることに意味がある」とおっしゃっていたことが印象に残っている。今回のお祭りで仲良くなった女の子に笛は毎年いつ頃から練習するかと聞いたところ、1年中、親や兄弟が代々やってきた笛をもっと上手に長く吹けるようになりたいと言って、来年もまた笛を聴きたいと強く思った。皆さんの話を聞いてこのお祭りは決して途絶えさせてはいけない文化だと強く感じた。地域の方が強い思いを寄せるお祭りに参加させていただいて本当に素敵な経験になったと思った。

今後に向けて

今後は準備日として前日だけでなくもう少し長期間携わることができたらいいと思った。今回はできているものを組み立てるお手伝いが多かったが、その前段階のお手伝いできればより地域の方と深く関われるのではないかと思った。

初めて陸前高田を訪れて実際に足を運んだからこそ学べることや経験できたことが多くあった。今回学んだことはしっかり次に生かしていきたい。また周りの方々に気を遣っていただいて助けられたことが多かったので、次は自分から積極的に行動し今回気がつかなかったことなどをたくさん見つけたいと思う。

(学生メンバー 法学部政治学科)

◇たかた子どもキャンパス「夏の思い出自然体験（米崎の海編）」

目的	陸前高田の子どもたちにとって大切な夏の思い出を作るべく尽力する
場所	岩手県陸前高田市米崎地区の海、陸前高田グローバルキャンパス（陸前高田市米崎町）
活動内容	食用貝の採集/貝を使った工作の手伝い
活動日時、参加人数	2018年8月11日（土）7：45～14：30（※夕方はレンタル自転車で市内めぐり） 3名

実施概要

陸前高田市教育委員会主催の「たかた子どもキャンパス」の活動中に子どもたちが怪我をしないよう見守り、より楽しんでもらうべく一緒に遊び、思い出を作った。市内の貝の専門家の監修のもと、地元である米崎の海で食用貝の収集を行い、昼食を作り一緒に食べた。さらに事前に用意された貝を磨いて作ったスタンプを使い、その日の思い出の絵を描いた。

感想・活動を通して得た学び

陸前高田市は海に面しているなので、夏は海に行って遊ぶことが当たり前であると思っていた。しかし震災の影響で海に対して恐怖感をもつ保護者も多く、この活動によって初めて海で遊ぶという親子もいた。震災により遊びが制限されている現実を改めて知らされた。参加したメンバーと子どもたちがとても仲良くなり盛り上がった活動になったことはこの企画が成功した証であり、教育委員会の皆さんの手伝いを遂行することができて良かったと思った。

今後に向けて

子どもたちと上手く交流することができ、彼らをきっかけにして保護者の方とも話すことができたことは良かった。活動自体は良かったが、参加時期がお盆の帰省ラッシュと重なったため、普段利用している交通機関ではないルートで行くことになった。そのうえ遅延で乗り換えに間に合わない事態が起きてしまい、対応に追われた。そのときボランティアセンターと連絡を取りながら決めることが大変だったので、事前に非常時のルールを定めておくべきだと感じた。

(学生メンバー 法学部法律学科)

◇たかた子どもキャンパス「ペットボトルいかにチャレンジ」

目的	子どもたちが安心して遊べるようリスク管理を徹底し、楽しい夏の思い出となるように全力でサポートする
場所	夢アリーナたかた（岩手県陸前高田市高田町）
活動内容	ペットボトルいかにチャレンジ運営のお手伝い、自分たちが作りたいかだで子どもたちと一緒に遊ぶ、怪我のないように見守る
活動日時、参加人数	2018年8月18日（土）7:30～12:30（※午後は地域の方からお話を伺った） 4名

実施概要

陸前高田市教育委員会主催の「たかた子どもキャンパス」で、ペットボトルを積み重ねていかに作り、そのいかに乗って一緒に遊んだり、怪我のないように見守ったりした。

たかた子どもキャンパスとは、土曜日午前中に市内の小学生が学習活動や文化体験活動、地域住民との交流活動など、さまざまな体験活動に取り組む市教育委員会が主催するプログラムのことである。

感想・活動を通して得た学び

普段は小学校などの教室を借りて運営しているが、今回は市営プールの一部を使ったため、一般の方々に迷惑をかけないよう注意をした。小学生低学年は震災を経験しておらず、陸前高田市の海水浴場で泳いだことがない子どももいたため、水を使った遊びを楽しんでもらえたことが感慨深かった。

今後に向けて

水を使った遊びに参加するのは初めてであったため、より注意が必要だった。参加人数が少なかったため一人ひとりに対応できたが、人数が多くなることも踏まえて安全面の対策を強化していくと良いだろう。「たかた子どもキャンパス」は年に数回参加させていただいているが、来年度はより回数を増やして地域の方ともっと交流を増やしていきたい。

(学生メンバー 経済学部経営学科)

◇復興支援大学校

目的	東京近郊の復興支援団体の交流
場所	東洋大学白山キャンパス（文京区）
活動内容	復興支援に関するワークショップ 教授6名、学生30名が参加（7-8団体）
活動日時、 参加人数	2018年9月1日（土）13:00~17:00 6名

実施概要

東洋大学白山キャンパスにて、他大学の、さまざまなセクションが集まり日々の活動報告を行った。最初は団体ごとにそれぞれ工夫したパワーポイントを使って発表をした。途中でグループ分けをし色々な団体の人とでグループを作り、さらに深く話し合ったり、東北のご当地グルメであるずんだ餅を使ってシェイクを作るなどレクリエーションも行った。

感想・活動を通して得た学び

私は当時まだ陸前高田に行ったことがなく経験が浅かったため、多くの先輩方の話を聞いて、これからの自分の活動への良い刺激ももらった。団体ごとでやっていることはまったく異なるようにみえても、ボランティアという誰かのためにという点では同じであることに改めて気づかされた。

今後に向けて

普段陸前高田セクションの中で活動するだけでは得られないような知識をこの復興支援大学校で得られたので、これからの活動に生かしていこうと思う。また、この大学校でも話し合った「ボランティアとは何か」というテーマをもう一度考え直して自分が活動している意味を深く考えながら活動していきたい。

（学生メンバー 法学部政治学科）

◇たかた子どもキャンパス「稲刈り体験」

目的	・陸前高田の子どもと積極的に触れ合う ・稲刈りを通じて陸前高田の食文化に触れ、理解する ・震災から7年経って今自分たちができることやこれから必要とされることを考える
場所	岩手県陸前高田市
活動内容	午前：陸前高田市子育て支援団体NPO法人きらりんきっず主催の稲刈り体験への参加 午後：市内の直売所である産直はまなすで行われるかかしコンテストへの参加のためのかかし作成、設置
活動日時、 参加人数	2018年9月29日（土）8:20~21:00 6名

実施概要

9月29日に、陸前高田市の子育て支援団体NPO法人きらりんきっず主催の稲刈り体験に参加し、地域の方々と交流した。また市内の直売所である「産直はまなす」にて、かかしコンテストに参加するためにかかしを作成、設置した。商業施設「アバッセたかた」にも足を運び、町や地域の人々のようすを

感じる事ができた（なお、台風の影響で急遽日帰りとなった）。

感想・活動を通して得た学び

地域の方々の陸前高田への熱い思いを感じる事ができた。また、子どもたちがとてもパワフルでたくさんのエネルギーを得ることもできた。今回の稲刈り体験に参加していた子どもたちの中には、震災を経験した子どもだけではなく、震災後に生まれて震災を知らない子どももいた。震災を知らない世代が増えていく中で、震災をなかったことにしない、させないために、地域の方々がさまざまな活動を行っていることを学んだ。



今後に向けて

震災を知らない世代が増えていく中で、私たちが陸前高田へ行き、学んだことや感じたことを発信していく場を設け、被害の大きさや被災地の今を伝えていくことが重要であると思う。そのためには情報を共有し、その情報をさまざまな形や場所で伝えていくことができる活動を目指すことが求められていると感じる。

（学生メンバー 社会学部社会福祉学科）

◇たかた子どもキャンパス「自主企画 体を動かす遊び」

目的	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの安全で楽しく動ける遊び場を提供するお手伝いをする ・町の地形や起伏を知ること、かさ上げされた高さや意味を考える ・米崎町、矢作町をより深く知る
場所	岩手県陸前高田市米崎町、矢作町
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・たかた子どもキャンパス活動、安生さんのりんご農園のお手伝い ・矢作町散策、陸前高田ドライビング・スクールで田村満さんからお話を伺う
活動日時、参加人数	2018年10月27日（土）7：30～22：30、10月28日（日）7：00～22：00 4名

実施概要

1日目は、早朝に陸前高田市役所前に到着。そのままBRTに乗って陸前高田グローバルキャンパスの体育館に向かい、たかた子どもキャンパスの活動を行う。大縄跳びやスポーツかるたなど、市役所の方やボランティアの方々と一緒に体を使った遊びを行う。その後、「産直はまなす」を訪問し安生さんと合流した。安生さんのりんご農園で大学祭で使用するりんごの発注と、りんごの全面に太陽の光が当たるようにりんごの向きを変えるお手伝いをさせていただく。夜は鈴木旅館に宿泊。

2日目は、徒歩で朝から矢作町の散策を行う。その後観光物産協会にて自転車をレンタルし市内を散策する。陸前高田ドライビング・スクールの田村満さんにお話を伺いに行く。夜に陸前高田市役所前から夜行バスに乗り帰宅。

感想・活動を通して得た学び

今回の活動を通して町の人々のあたたかさを感じた。私たちが町を散策していると、必ず挨拶をしてくださり、話しかけてくださった。町のあたたかさと地域のつながりの強さを感じた。また、たかた子どもキャンパスでは、特にスポーツかるたで盛り上がり、達成感を感じたとともに、一から何かを企画するためには、さまざまな状況を考える必要があるという、企画の大変さも実感した。

今後に向けて

東日本大震災が発生してから年数が経ち、私たちのボランティアの内容も変わってきていることを感じた。瓦礫の撤去から、傾聴すること、地域の人々が集い楽しめるイベントの企画・開催や、子どもたちの教育支援などに変ってきているということを、陸前高田ドライビング・スクールの田村満さんのお話を伺って感じた。今後セクションの中で、これからできる支援は何なのかを話し合い、これからも継続した支援活動を続けていきたい。

(学生メンバー 法学部政治学科)

◇きらりんきっず「ファミリーフェス 2018」

目的	・子どもたちが遊ぶ場所の安全を守るお手伝いをして、親子で参加できるイベントをサポートする ・陸前高田のさまざまな風景を見る
場所	夢アリーナたかた（岩手県陸前高田市高田町）
活動内容	きらりんきっずイベント手伝い/市内見学
活動日時、参加人数	2018年12月8日（土）8：50～23：00、12月9日（土）8：40～21：00 2名

実施概要

陸前高田市の高田大隅つどの丘商店街に拠点をかまえる、特定非営利活動法人きらりんきっずが行う「ファミリーフェス 2018」の前日準備と当日の2日間に参加した。また陸前高田に訪れたのが2回目以上のメンバーのため、町並みの変化を見学した。

ファミリーフェスに向けて前日に行った準備は、机の搬入やマット敷きの手伝い、当日はいくつかあるブースの手伝いや入口での靴袋配り、アンケート協力の声かけ、片付けに参加した。市内見学は以前からも訪れている一本松や商業施設周辺を見学した。

感想・活動を通して得た学び

きらりんきっずの皆さんには7月の夕涼み会でお世話になっていたが、ファミリーフェスには初めて参加した。子どもだけでなく保護者も楽しめるようなブースもあり、親同士でつながることができるイベントがあると情報交換や地域でのコミュニケーションが生まれると感じた。私がブースで手伝っていると、参加者から感謝の言葉や、活動に関しての要望が出てきていて、きらりんきっずが地域に住む親子に寄り添って一緒に活動している印象を受けた。

今後に向けて

以前の活動で我々の顔を覚えてくださっている方や声をかけてくれる子どもがいてとても嬉しかった。

1回行って終わりにするのではなく、繰り返し行って関係を作っていくことで、団体の活動やその目的、プロセスを理解できて現状に気づき、私たちの活動内容もより深いものになっていくと感じる。市内見学も何度も訪れることで工事による道や風景の変化を学ぶことができた。今後は先輩や自分たちが築いた関係を後輩につなげていくとともに、町並みの変化をセクション内だけでなくもっと広く伝えていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)